

令和6年度  
芦屋市文化推進基本計画評価報告書  
(令和5年度実績)

芦 屋 市





## 1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進

### 【総括】

#### 1 重点取組項目別の総括評価

令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症の取扱いが5類に移行となったが、引き続きコロナ禍以前との実施手法の変更等を行いながら、「さくらまつり」や「サマーカーニバル」、「秋まつり」など本市を代表する大型イベントのほか各種事業を開催することができたことで、市内の文化的活動も昨年度と比較して活性化してきている。ただし、事業によってはコロナ禍以前の回復までには至っていないものもあり、引き続き活動支援や事業周知など必要である。

また、文化財においては、歴史的・文化的価値のある貴重な文化財資料である江戸時代の絵図や明治から昭和30年代の絵葉書及び古写真のデジタル化を実施した。今後は、デジタル化した歴史資料の活用方法についての検討が課題となるため、先進市等の手法の研究に取り組む必要がある。

#### 2 新規・拡充検討項目に関する進捗状況

##### < ICTを活用した文化芸術作品の保管・公開の検討 >

歴史的・文化的価値のある貴重な文化財資料である江戸時代の絵図や明治から昭和30年代の絵葉書及び古写真のデジタル化を実施した。

##### < 文化芸術を通じて様々な人が交流できる仕組み・環境づくり >

映画を通じて、誰もが文化に身近に楽しみ等を感じながら「平和」や「人権啓発」をテーマとした作品を上映し人権に対する意識の向上と醸成を図った。

##### < 文化ゾーン（図書館、谷崎潤一郎記念館、美術博物館）の利点を生かした3館連携・協力事業 >

美術博物館と谷崎潤一郎記念館、図書館では、両館に関する図書展示を実施し、文化ゾーンの活性化を図った。

##### < 補助金の活用による文化芸術活動の機会提供の促進 >

教育、学術、文化及びスポーツに関する事業を行う団体に対し、芦屋市教育委員会の後援名義の使用を承認した。207件の承認を行い、文化活動等の振興を図った。

##### < ソーシャルメディアを活用した情報発信 >

市民が市への愛着と関心を深めるきっかけとなるよう、各種媒体の特性を活かし、市内の移り行く季節の風景や地域行事などの動画を撮影・編集・投稿した。また、広報番組では、動画でより市民に分かりやすく市内の文化施設の紹介や文化史跡の説明など、

身近な情報の発信にも努めた。

< 阪神間モダニズムや日本遺産等の歴史的魅力にあふれた文化財群に関する情報発信 >

阪神間に現存するモダニズム建築や多彩な文化を紹介し、阪神間モダニズムの魅力を地域内外に発信するため、スイーツ&パンを題材とした「阪神KANお散歩マップ」を発行した。また、「阪神間モダニズムセミナー」や「阪神間モダニズム体感イベント」、「レトロ&モダニズムウォーク」を実施し、阪神間モダニズムを様々なツールで発信することで、幅広い層へのアプローチとなり、交流人口増加のきっかけづくりを行った。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 誰もが文化を身近に楽しめる仕組みづくり

・事業No.1 各種媒体を活用した情報発信

<取組成果>

市民が市への愛着と関心を深めるきっかけとなるよう、各種媒体の特性を活かし、市内の移り行く季節の風景や地域行事などの動画を撮影・編集・投稿した。また、広報番組では、動画でより市民に分かりやすく市内の文化施設の紹介や文化史跡の説明など、身近な情報の発信にも努めた。

・事業No.4 あしや秋まつり開催支援

<取組成果>

昨年より場所を拡大し開催。だんじりパレードや子どもみこしパレード、県内産の野菜等物販、もちつき等を行った。物販においては多くが売り切れとなり好評であった。

<課題>

公園内でのイベントに関しては、来場者数に対して開催場所が狭いため、開催場所の検討が必要である。

・事業No.6 ワンコインシアター

<取組成果>

市民の居場所作りとして、市内に映画館がないため、名作映画の上映会を実施した。古き良き時代の名作を幅広い年齢層に紹介することで、懐かしい思い出や新しい発見を見つけることにつながり、世代を超えた交流の場を提供している。

恋愛物からサスペンス、クラシック音楽や伝記などテーマに偏らないように作品選びをしていることで、市民からは毎回好評を得ている。

<課題>

参加者について、高齢者が多いので、若年層への周知方法を検討する必要がある。

・事業No.8 保健福祉フェア

<取組成果>

コロナ禍以降開催を見送っていた保健福祉フェアを4年ぶりに午後1時から午後4時にて時短開催した。保健福祉等にかかる市の事業・団体活動の周知を目的として開催し、延4,000人を超える参加があった。アンケートでも、「楽しい企画だった。企

画がたくさんあり良かった。」「とても役立つ情報が頂けたり、楽しい催しがありよかった。」等肯定的な意見も多くあり、今後も継続開催を予定している。

<課題>

新しい生活様式を踏まえた、より良い保健福祉フェアの開催について検討が必要である。

・事業No.9 サマーカーニバル開催支援

<取組成果>

芦屋市民まつり協議会が開催する第45回芦屋サマーカーニバルの活動助成及び交通安全対策に対し助成金を交付した。

会場を締め切り、事前申込及び有料観覧のみで実施された。来場者数は、砂浜や有料観覧席等で19,000人、周辺地域で12,300人であった。

<課題>

今後も会場内を事前予約及び有料観覧のみに限った開催となる場合、市民が取り残されない対策を講ずる必要がある。

会場内や公園内に入場できる対象が、有料観覧や事前予約者に限られるため、その他の人々が会場外に滞留することが考えられ、雑踏警備体制強化も必要となる。

## (2) 文化活動を通じた地域のつながりづくり

・事業No.26 通いの場づくり補助事業

・事業No.27 ひとり一役活動推進事業

<取組成果>

通いの場づくり補助事業では、事業利用団体（※事業利用は利用開始年度及び翌年度の2回に限る）が4団体ある。ひとり一役活動推進事業では登録者数が76人から91人に増加しており、活動件数も増加傾向にあるため、継続的に地域活動の促進と介護予防の推進に寄与することができた。

<課題>

新型コロナウイルス感染症拡大により縮小した活動再開のため、改めて事業の周知啓発や活動先の拡充等について検討していく。

## (3) ユニバーサル社会づくりを目指した生涯学習活動の振興

・事業No.45 敬老会

#### <取組成果>

高齢介護課が主催イベントの敬老会事業において、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上、昨年度と同様に、式典及び余興を催すことができた。

#### <課題>

対象者の皆様が喜んでいただけるような工夫の仕方は引き続き取り組んだ上、新型コロナウイルス含めた感染症の対策実施方法等は課題である。

### (4) 文化ゾーンの活性化、各種施設の有効活用

#### ・事業No.63 文化ゾーン連携事業（n i w a - d o k u、講座の開催）

#### <取組成果>

3館連携事業として、継続的に「n i w a - d o k u」を開催しており、文化ゾーンの活性化の一助となっていると考える。

#### <課題>

3館連携事業として「n i w a - d o k u」を継続してきたが、令和5年度は雨天のため実施できなかった。天候に影響されないイベント内容に転換することや、雨天順延のための予備日を設けることなども含め検証する必要がある。

### (5) 文化芸術を行う団体への支援

#### ・事業No.65 市民文化賞

#### <取組成果>

文化の高揚・生活の向上に貢献した功績が顕著な者に対し、文化賞を贈り表彰することにより、市民文化の向上発展をはかることを目的としている。

また、受賞者のうち任意で入会ができる芦屋市民文化賞受賞者懇話会「菊寿会」は文化的諸事業への協力を通して、市民文化の向上発展に寄与している。

#### <課題>

現在、市民文化賞の候補者は菊寿会及び各部からの推薦によっているが、各部からの推薦が少ない状況もあり、候補者の掘り起しが課題となっている。

#### ・事業No.67 市後援名義の使用承認

#### <取組成果>

教育、学術、文化及びスポーツに関する事業を行う団体に対し、芦屋市教育委員会の後援名義の使用を承認した。207件の承認を行い、文化活動等の振興を図った。

<課題>

市民の文化活動促進に寄与する事業であるかどうかの適切な審査を行うことが課題である。

・事業No.70 市民提案型事業補助金

<取組成果>

市民から社会課題の解決など自主的な取組として提案のあった活動に対して補助金の交付を行っている。令和5年度は、スポーツに関連するものや女性の社会進出についての事業について補助金を交付した。

市民活動をしたいが資金面で困難を抱えている市民に対し、補助金を交付することで活動を後押しし、市民活動の活性化を図っている。

<課題>

補助金を交付した事業が当該年度だけでなく、その後も継続して実施されているかをフォローしていくための仕組みづくりを行っていくことが課題である。

**(6) 文化に関する情報発信の強化**

・事業No.75 阪神間連携ブランド発信事業

<取組成果>

阪神間に現存するモダニズム建築や多彩な文化を紹介し、阪神間モダニズムの魅力を地域内外に発信するため、スイーツ&パンを題材とした「阪神KANお散歩マップ」を発行した。また、「阪神間モダニズムセミナー」や「阪神間モダニズム体感イベント」、「レトロ&モダニズムウォーク」を実施し、阪神間モダニズムを様々なツールで発信することで、幅広い層へのアプローチとなり、交流人口増加のきっかけになったと思われる。

<課題>

イベント内容について好評をいただいております、交流人口増加のきっかけになっていると考えてはいるものの、実際、阪神間モダニズムの認知度の向上や、市への来訪者数の増加に繋がっているか成果が把握しづらい。

## 2 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進

### 【総括】

#### 1 重点取組項目別の総括評価

令和4年度の全中学校での給食実施により、本市の特色の一つである学校給食を通じた食育が中学校においても取り組めるようになった。学校と家庭・地域社会との連携を強め、児童生徒の健全な心身の発達に資する望ましい食生活を探求することを目的に、継続的な取組のほか、新たにブルーシーフードの取組を市立小中学校の給食においても実施した。

#### 2 新規・拡充検討項目に関する進捗状況

##### <中学校における食育の推進>

ブルーシーフードの取組を市立小中学校の給食で実施した。協力事業との連携協定を締結し、SDGsの観点から食育を進めることが出来た。

##### <学校図書館の活用>

市立小中学校による読書活動紹介展示を行うなど、子どもたちが読書に親しんだ成果を発表できる機会を設定することができた。また、学校図書館担当者会の協議会を3回開催し、各校の読書活動実践の交流を行うことができた。

##### <外国人児童生徒等の日本語習得支援>

日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対してDLA（対話型アセスメント）を活用した個別の支援計画に基づいた支援等の研修会に3割強の教職員が参加して授業の実践研究により、スキルの向上に努めた。

初期日本語指導が必要な児童生徒を対象に、潮見小学校に初期日本語指導教室を開室している。放課後に、個別指導を実施することで、生活言語の獲得が進み、対象児童生徒の学習参加につながっている令和5年度から、岩園小学校にも初期日本語指導教室を開室した。

##### <子どもの頃から本物（一流）に出会い・体験する取組>

児童生徒に味覚教育・授業を通して、五感を使って味わう大切さを知らせるとともに、食への正しい理解と高い関心を育むことを目的に実施した。市内小学校において市内飲食店のシェフから味覚の奥深さなどを学ぶ授業を開催した。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 情操を育む体験活動の推進

・事業 No. 84 生活発表会

<取組成果>

絵本の物語等を題材にした劇を子どもたちが作り上げていき、生活発表会で保護者が観覧した。

絵本の物語を通じて、豊かな想像性、感性を育む文化活動の機会を持つことが出来た。

<課題>

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、その他の感染症の流行も含め、状況により拡大防止対策や人数制限等を行いながら実施した。今後も実施方法等について検討する。

・事業 No. 88 読書活動推進事業

<取組成果>

スタンプラリー及び読書記録カードを市立小学校へ配布し、活用の推進を図った。スタンプラリーの達成者は、令和5年度の1年間で1,188人となり、達成者数も年々増加している。

また、児童生徒1人当たりの年間貸出冊数についても、小学校においては年々増加しており、令和4年度と比較すると約7冊と大幅に増加している。

春・秋の読書週間及び月間時の読書推進啓発として、芦屋市立学校園に在籍する子どもと保護者へ啓発チラシを配布した。また、市内掲示板にポスターを掲示し、広く市民に情報提供を行った。

<課題>

学校図書館の活用促進のため、担当者及び司書補助員への研修を充実させる必要がある。また、学校における読書活動の成果の発信を充実させ、各校の取組を共有する必要がある。

・事業 No. 91、98 あしやキッズスクエア

<取組成果>

地域の見守りを受けながら、放課後に校庭や校舎を利用し、安全に過ごす「居場所づ

くり」については、市内8小学校で延べ1,805日キッズスクエアを開催し、各小学校平均で1日あたり18名の利用があった。

<課題>

地域・企業・NPO・高校・大学と協働し、様々な体験活動を児童に提供する「体験プログラム」については、コロナ禍で見合わせていた既存の体験プログラムの再開・実施回数増加を優先し、積極的な新規拡充には至らなかった。

・事業 No. 99 図書館運営事業（学校・幼稚園への貸出、団体受入）

<取組成果>

定期的に園児に図書館本館や分室の絵本を貸出している。その際に、絵本に親しむ機会となるよう絵本の読み聞かせを行っている。市内の小学校から図書館見学の希望があれば、受け入れを行った。

<課題>

図書館を利用している学校園は、地理的な問題などもあり限られているが、できる限り本に親しむ機会を創出できるよう学校園と連携していきたい。

・事業 No. 87 中学校における食育の推進

<取組成果>

全中学校で給食を実施するようになり、望ましい食習慣や食事を通して豊かな心と好ましい人間関係を育てるために、学校給食を「生きた教材」として活用した食育の指導に取り組むことができる環境が整った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、感染対策を講じながら、家庭科の授業の中で食育を行い、給食委員会の活動の一環として実施するなど、方法を工夫した。

<課題>

限られた授業時間の中で、食育の授業に取り組むための時間の確保を行う必要がある。

## (2) 地域社会とのつながりによる文化体験

・事業 No. 94 児童健全育成事業（親子・保護者の交流）

<取組成果>

定期的に事業を実施することにより、同年代の子どもと保護者が集い、親子遊びと子育て交流の場を提供することができた。

#### <課題>

新型コロナウイルス感染防止の観点から、定員数を減らして実施しているため、参加を希望する方全員が少しでも利用できるような運営方法の工夫が必要である。

### ・事業 No. 95 トライやる・ウィーク推進事業

#### <取組成果>

生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性を高めることができるよう支援するなど、「心の教育」を推進している。また、他者と協力・協働して社会に参画する体験活動を通じ、生徒のキャリア教育を支援し、地域に学び、共に生きる心や感謝の気持ちを育む活動が事前・事後学習を含めて行うことが出来た。

#### <課題>

受け入れ事業所数の更なる増加を目指し、トライやる・ウィーク推進連絡協議会からの働きかけを行い、選択肢となる職業分野を増やすことや、期間外にも地域とのつながりが持てる活動を増やし、「地域コミュニティの構築」に心掛けて活動を推進して行く必要がある。

### (3) 親子に向けた積極的な情報発信

#### ・事業 No. 101 子育て情報の発信

#### <取組成果>

子育てサポートブック「わくわく子育て」の改訂版を発行して市内の各公共施設や事業について紹介し、子育て世帯へ情報発信を行った。

また、保護者向けの情報発信手段として有効である子育てアプリを積極的に活用し、親子向けのイベント情報やお知らせを周知できた。さらに、発信時には配信を知らせるプッシュ通知設定を必ず行い、より多くの登録者に情報が行きわたるよう工夫した。

#### <課題>

親子向けのイベントやお知らせに関する情報発信の機会を増やすため、引き続き他部署と連携を図りながら、全庁的に広く記事を募集し、イベントや子どもの居場所について積極的に周知を行い、情報発信に努める必要がある。

### 3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり

#### 【総括】

#### 1 重点取組項目別の総括評価

エリアマネジメントの取組の1つである「打出の小道プロジェクト」において、地域や武庫川女子大学と連携して進めてきた打出公園や打出教育文化センター周辺の新しいあり方をもとに、令和5年度も引き続きワークショップを2回開催するなど、市民意見を反映した整備を行い、リニューアルイベントを開催した。

茶屋さくら通りにおいては、地域の未来ビジョン策定に向けたエリアプラットフォームの構築など、地域や事業者などとの協議を進めた。また、公共空間の利活用を進めるため、茶屋さくら通りを歩行者天国にする社会実験を実施。地域や事業者が主体となった取組のロールモデルとなるよう、令和6年度も取組を進めていく。

#### 2 新規・拡充検討項目に関する進捗状況

##### <多言語への翻訳や「やさしい日本語」による情報発信による交流機会の創出>

広報紙や防災などの情報発信として、希望者に対して、やさしい日本語と英語によるメール配信を実施している。令和5年度は新たにLINEでの配信を開始して、複数の媒体による多言語での市内情報の配信に努めた。

##### <周辺地域・学校園等との連携>

令和6年度より、実施予定の「学校連携及び障がい者等宅配事業」の事前準備として、令和5年度は、図書館職員による学校図書司書補助員を対象とした説明会を実施し、事業連携に努めた。

##### <ICT等の活用など読書に親しむことができる環境の整備>

図書館打出分室の大規模改修を実施した。また、同施設に図書消毒器及び敷地内に図書の返却ポストを設置した。

ICタグによる図書の管理、及び自動貸出機、予約本受取コーナーを設置し、市民サービスの向上を図った。

<取組成果・課題>★一部抜粋

(1) 暮らしに根ざした文化交流のまちづくり

・事業 No. 104 各種媒体を活用した情報発信

<取組成果>

○多言語情報配信クラウドサービスの使用開始（令和2年5月から）

日本語を含む10言語でオンライン情報配信を行うことで、より早く大切な情報を多くの方に伝えることができた。また、読み上げ機能やUDフォントを使用しているため、目の不自由な方への配慮や子どもやお年寄りにも伝わりやすい発信ができた。また、庁内研修を行い、職員へ操作の説明をした。

○姉妹都市交流（令和5年度）

2年ぶりにホームステイも含め、交流事業が再開された。芦屋市から2人、モンテペロ市へ訪問し、モンテペロ市から2人、芦屋市へ訪問された。交流事業の参加人数は1,072人であった。

○やさしい日本語と英語によるメール配信開始（令和3年1月から）

希望者にやさしい日本語と英語によるメール配信を開始。主に広報紙の内容や防災など大切なお知らせを月に1回程度配信した。令和5年度は、LINEでの配信も開始した。

<課題>

多言語情報配信クラウドサービスの周知、メールアドレス・LINEの登録者を増やす。また、分かりやすい情報発信をするため、見せ方や伝え方を研究していく必要がある。

(2) 芦屋らしい良好な住まい・景観づくり

・事業 No. 112 道路の改良事業

<取組成果>

都市防災の強化、通行空間の安全性及び快適性の向上、良好な都市景観の形成を目的として、無電柱化を推進している。令和5年度は、六麓荘地区無電柱化工事のための設計業務を実施した。

また、11月6日から17日に六麓荘地区無電柱化を題材としたパネル展示を実施し、無電柱化事業について関心と理解を深めてもらった。

<課題>

無電柱化に対する関心と理解を深めてもらえるよう、今後も啓発を行っていく。

### ・事業 No. 1 1 3 庭園都市推進事業

#### <取組成果>

「芦屋オープンガーデン」として、花と緑いっぱいのまちづくりに向けた市民との協同を目的とし、花と緑のまちづくりの推進のため個人宅、マンション敷地、学校園、公園で活躍されている個人・団体から参加を募り、庭や花壇を公開するイベントを行った。実施期間は令和5年4月15日から19日と、令和5年5月10日から14日。成果指標として、参加者数（オープンガーデン箇所数）は令和4年度が163箇所、令和5年度が183箇所。前年度より増加しており、ある程度達成できている。令和6年度は参加者数の増加を目標とする。

#### <課題>

公共施設、個人参加者の定着及び促進の必要がある。また、団体参加者についても高齢化等により活動が続けられない団体もあり、課題となっている。今後、市民意識の向上を促す取組が必要となってくると思われる。

### (3) 読書のまちづくりの推進

#### ・事業 No. 1 2 5 小学生の本の部屋

#### <取組成果>

昨年度は「ピーターラビットとその世界」をテーマに絵本の読み聞かせと作家や物語の背景なども合わせて紹介するイベントを開催した。日曜日に小学生を対象に開催したが、参加人数は定員を満たさなかった。

#### <課題>

就学前児童や小学生を対象にした読書関連事業は継続的に開催しているが、中高生や大人を対象にした事が限られているため、開催日時やテーマ等、参加者ニーズの把握に努め類似事業の整理も含めて検証を行いたい。

### (4) 文化を通じたまちの魅力の一体的な発信

#### ・事業 No. 1 3 3 ご当地ナンバープレートの交付

#### <取組成果>

恵まれた自然環境のもと、文化性にあふれたまちとして発展してきた芦屋らしさを、ご当地ナンバープレートで市内外へ広く発信している。

指 標	単 位	現状値 (R4実績)	めざす値 (R7)	現状値 (R5実績)
<b>1 全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進</b>				
① この1年間における文化体験・活動の有無	%	49.1	70.0	—
② 公民館講座等の受講率	%	85.1	85	70.5
③ 1年間で自発的に学びを得る機会があった人の割合	%	44.4	52	—
④ 芦屋市内の主な歴史的・文化的な資源の知っている割合	%	81.6	70	—
⑤ 美術博物館の展覧会の満足度	%	43.2	50	42.3
⑥ 「広報あしや」の市民の満足度	%	56.1	70.0	—
⑦ 市ホームページの市民の満足度	%	28.4	60.0	—
<b>2 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進</b>				
⑧ あしやキッズスクエアでのプログラム実施回数	回／年	251	920	361
⑨学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日 当たり1時 間以上、読書をする(教科書や参考書、漫画や雑 誌は除く)生徒の割合	% (小学生)	15.9	22	20.8
	% (中学生)	11.2	15	13.9
<b>3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり</b>				
⑩NPOなどの団体と協働して開催した国際理解を深めるため の講座の参加者数	人／年	198	250	206
⑪地域におけるまちなみとまちなかの緑の景観の美しいと感じ ている人の割合	%	93.4	91.3	93.4
⑫公園を年数回以上、利用したことがある人の割合	%	49.8	60.0	49.8
⑬公立図書館における市民1人当たりの図書貸出冊数	冊／年	7.5	8	7.1
⑭「定住意向」に対して、「今の場所に住み続けたい」「市内の 他の場所で住み続けたい」と回答した割合	%	86.6	84.3	86.6